臥牛

大分県立竹田高等学校
関東同窓会
会報
第50号

発行者・会長　松良修二
編集者・委員長　衛藤　淳
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町4384-2
電話　045-803-5677

http://www.geocities.jp/kantohtaketa/

関東同窓会
第29回 総会・懇親会

「とき・平成27年6月20日(土)
ところ・東京プリンスホテル」

年に一度の待望の同窓会総会・懇親会が6月20日東京プリンスホテルにて盛大に行われました。

まずは井手幹事長からあいさつがあり、物故者への哀悼の意を表して黙とうし故人を偲んだあと、恒例の校歌斉唱。

続いて松良会長よりあいさつがありました。

「この総会懇親会も今回で29回目を迎えました。今回は233名もの多くの方々にご参加いただきました。参加者の皆さまに心から御礼申し上げます」

そして、多数ご出席いただいたご来賓を紹介。後藤輝美校長、同窓会会長の後藤真二会長、竹田市長の首藤勝次市長、竹田会会長の辻享会長、元北九州市長、財務省参与の末吉興一様、東京高友会の皆様他の方々。

次いで春の幹事会で決議された役員改選案の提示があり承認されました。

そして、この1年の関東同窓会のさまざまな活動が紹介されました。昨年12月には修学旅行で上京してきた生徒たちをサポートし交流会を行うことができました。さらに母校に関東同窓会の文庫を開設することになりました。(本誌8ページに詳報)

これらの活動を支えてくださっているのが会員の皆様の維持会費です。

「みなさまからの真心からの維持会費によりまして26年度も健全な維持運営をおこなうことができました。たいへんにありがとうございました」（松良会長）

さらに松良会長からは「今年の懇親会の当番幹事は昭和49年、59年卒の皆さまでした。先輩後輩がさらに交流を深めこの同窓会が互いに啓発し合って心豊かな生活を送れるようになるように切に願っております」とあいさつがありました。

列席いただいた来賓からは首藤竹田市長から、「竹田市と直入郡が合併をしておかげさまでちょうど10年を迎えます。転入する人も増え水害の復旧も終えて、図書館と文化会館の建設に向けて市民の皆さんと智恵を出し合っているところです」と竹田のホットな話題がたくさん紹介されました。

竹田高校は今、第2の黄金期

続いて登壇した後藤校長からは、修学旅行のサポートや図書寄贈のお礼が述べられて、さらに竹田高校の最新の様子が紹介されました。

「竹田高校は今、第二の黄金期を迎えているといっても良いと思います。本年の九大4名合格は県下でベスト5。県指定の進学重点校として充実しています。部活動では山岳部6連覇、24回連続インターハイ出場、さらに県下唯一のクライミング施設があり、男女ともに上位独占しています。生徒は非常に輝いています。あいさつが非常にいいと評判。野球部の生徒が席をゆずってくれたと寄付をしてくださった方がいらっしゃったほどです」と母校の素晴らしい発展ぶりが紹介されました。

また後藤同窓会会長からも、「竹田高校は平成29年には創立120周年を迎えます。皆さまと一緒に迎えられる喜びでいっぱいです。200年先にも光をなす存在であるために、これからさらに一層、同窓会、PTA、在京竹田会、そしてこの関東同窓会が一致団結して未来を目指してまいりましょう」と心強いごあいさつをいただきました。

関東同窓会・松良会長

財務省参与（元北九州市長）の末吉興一氏（昭28年卒）

同窓会・後藤会長からは「創立120周年に向けて一致団結しよう!」と力強いエールが送られました

後藤校長からは「竹田高校は今が第2の黄金期」とうれしい報告

首藤竹田市長は竹田の最新の話題をたくさん紹介されました

懇親会も盛大に挙行される

当番幹事　衛藤　寛（昭59年卒）・写真撮影　原口陽一郎（昭49年卒）

懇親会の司会を務めたのは当番幹事代表・衛藤寛さん（昭59年卒）と阿南貴恵さん（同）でした。阿南さんはプロのMCで多くの方が「さすが、素晴らしい！」と絶賛したアナウンスぶりでした

去る6月20日、梅雨の合間を縫って第29回関東同窓会は開催されました。

今年の総会及び懇親会には昭和23年から平成10年までの幅広い世代の卒業生に出席いただき、来賓を含めた総勢はなんと230名を超えました。ご存知ですか？　関東同窓会は県内高校屈指の規模を誇る一大イベントなのです。

そして毎年持ち回りとなる懇親会の幹事は49年と59年の卒業生が務めました。季節は初夏、高楼は東京タワーとなりますが、懇親会は花の宴と相成りましたでしょうか。現役MCの阿南貴恵さん（昭59年卒）が司会に着き、濱口鈴子さん（昭26年卒）の乾杯の発声と共に笑顔が溢れ、懐かしい言葉が飛び交い幕が開きました。

懇親会では郷土の産直品販売や所縁の催しが毎年行われるのですが、銘菓「荒城の月」は、準備した100箱が早々に完売する人気振りです。

和楽ユニット「和三BON」をゲストに迎えた演奏で、尺八が奏でた「荒城の月」は、故郷に身はなくとも曲に心を寄せる竹高人を唸らせる感動の一鳴りでした。

また、ソプラノ歌手の西みほさん（昭55年卒）はCD「竹田浪漫」の中から2曲を披露し喝采を博しました。聴き慣れた歌、地元の酒が進むに連れて誰もが学生時代に戻っていく様です。級友と酌み交わす、それだけで「花の宴」なのかもしれません。

さて、私はというと、前回の同窓会がご縁となり昨年竹田でお会いした早川先生が、今年はご友人に手紙を託してくださいました。竹田の風を運ぶ便りに故郷を偲ぶ思いも一入で、私にとってもまた「花の宴」と相成りました。様々な想いを胸に懐かしい人達との会話が弾み時は流れていきます。会場いっぱいの輪でストームした後、来年の幹事への引き継ぎが行われフィナーレとなりました。次回は50年と60年の卒業生が30回目となる節目の当番幹事を務めます。来年もどうぞご期待ください。

最後になりますが、同窓会開催に際しまして、ご支援、ご協力を賜わりました関係者各位に幹事一同心より感謝申し上げます。

和三BOM（わさんぼん）は、和楽器を使いながら多くのジャンルの楽曲を演奏する独自のスタイルで海外公演も行っている実力派のグループ。和太鼓・響道寮（ひびき とおえん）、尺八は小濱明人（おはま あきひと）、津軽三味線は山本大の各氏

多くの参加者が集った会場風景

乾杯のご発声は濱口鈴子さん（昭26年卒）。凛とした音頭で総会に彩りを添えました

来年の当番幹事を担当する昭50年・60年卒のメンバーがあいさつ

ソプラノ歌手の西みほさん（昭55年卒）は愛知から駆けつけてくださいました

産直品販売コーナーの"看板娘"の皆さん

役員改選のごあいさつ

会長
松良　修二
（昭34年卒）

第29回総会で役員改選案が承認され、引き続き会長を務めさせて頂くことになりました。役員、学年幹事の皆さんと力を合わせ、関東同窓会の発展のため一層努力させて頂く所存です。よろしくお願い申し上げます。

今年の総会は、昨年同様多数のご出席を賜り、成功裡に終えることができました。これは偏に会員の皆様の絶えざるご支援とご厚意の賜物です。本紙を借りて厚く御礼申し上げます。

新役員として企画委員長に44年卒の都俊生氏、総務委員長に46年卒の羽田野耕一氏、広報委員長に52年卒の齋藤淳氏が就任致しました。若手のみなさんです。お引き立ての程よろしくお願い申し上げます。

来年の創立30周年にむけて、さらなる飛躍を目指そう!!

さて、関東同窓会は来年でいよいよ30周年を迎えます。これを機に、母校との絆を一層深めることを目標の一つとして、活動の推進を図ります。

第一弾は、母校における関東同窓会の寄贈文庫の創設です。今年の9月に「Ambitious Library 大志文庫」を開設致しました。生徒諸君の意見も入れ、育ててゆきたいと思っております。継続は力なりです。寄贈する図書が枯渇することのないよう、会員の皆様にも推薦図書の紹介を是非お願い致します。

さらに、これまで毎年実施してきた「母校2年生の東京修学旅行での企業訪問支援」を見直し、生徒と先輩のより濃い交流の場に転化させるべく学校側と協議します。限られた予算のなかでも、母校との絆を深める施策はまだまだあると思います。役員会・幹事会を通じ今後検討を深めますが、皆様のアイデアも学年幹事を通じ是非お寄せ頂きたいと存じます。

いまひとつの課題は、幹事会の充実です。幹事会は役員と学年幹事から構成されていますが、出席人員に大きな隔たりがあります。特に昭和61年卒以降の学年からの出席者が非常に少ないのが現状です。因みに昭和61年から平成19年卒までで、学年幹事が決まっていない学年が13学年あります。若い方ほど転勤などのため、関東地区での定住が不明な場合が多いとは思いますものの、この現状は気がかりです。組織委員会を中心に改善に向け、努力を続けますが、皆様方からのご支援も是非お願い致します。

毎年、懇親会の当番幹事の方にお会いする度に、人材の豊かさと同時に関東同窓会の奥の深さを感じています。同窓会を維持発展させる為の鍵は、正に人です。伝統ある竹高関東同窓会の灯を輝き続けさせるために、世代の交代をより確実なものにしようではありませんか。

2016（平成28）年 関東同窓会 総会・懇親会

明年2016年の総会・懇親会が以下のような概要となりました。関東同窓会創立30周年となる記念のイベントとなります。ぜひ皆様お誘い合わせの上ご参加ください。

※現時点では予定のため変更の可能性もあります。詳細決定後の正式なご案内をお待ちください。

【日時】2016年7月2日(土)
12時開会（～15時30分）
【会場】グランドヒル市ヶ谷
（JR、地下鉄・市ヶ谷駅より徒歩3分）
〒162－0845
東京都新宿区市谷本村町4－1
【当番幹事】昭和50年卒、昭和60年卒

秋の役員会・学年幹事会が開催される

10月31日に市ヶ谷のアルカディア（私学会館）にて恒例の秋の「役員会・学年幹事会」が開催されました。学年幹事会では多数の幹事さんが参加して活発に意見交換などが行われました。

議題は以下の通りです。

①松良会長よりあいさつ

②各委員会より報告
- 総務委員会（6月の総会・懇親会の会計報告と承認）
- 企画委員会（来年2016年総会・懇親会へ向けての取り組みの報告と30回記念となることから現状の取り組み状況の報告）
- 組織委員会（学年幹事の掌握状況の報告と今後の取り組みの報告）
- 広報委員会（発行予定の会報誌『臥牛』12月号の概要報告と母校への図書寄贈の除幕式の模様の報告）

③明2016年の30周年記念の総会・懇親会について
- 30周年を記念するための意見やアトラクション案などが検討されました。

④同窓会会員の個人情報の取り扱いについて
- 総務委員会より「同窓会会員名簿管理運用規定（案）」が提出され審議のうえで制定に向けて進められることが承認されました。

クラス会・同期会

昭和26年卒 竹高二六会　入学70周年記念同級会

大津　了一（昭26年卒）
＝大分市在住＝

卒業因年記念の同級会はよくありますが、私たち竹高二六会（阿南惟正会長）は今年『入学70年記念』の同級会を行いました。遠く関東からも参加いただき大変盛会でした。

私たちが入学したのは昭和20年、まさに終戦の年でした。それぞれ旧制竹田中学、竹田高等女学校、竹田商工学校に入学したのですが、昭和23年にこの3校が統合されて新制の竹田高校になったのです。

本年4月26日に久住高原荘には総勢41名が集い、恩師・田北和義先生も駆けつけてくださいました。この年代になって恩師に再会できる喜びは格別です。話はいつまでも尽きませんでしたが、「荒城の月」「校歌」をともに歌い、再会を誓い合って散会しました。

昭和28年卒 関東二八会開催

堀　利旦（昭28年卒）

去る3月28日、新宿副都心の「三井クラブ」において関東二八会（竹田高校昭和28年卒業の同期会）が開催された。当日は関東地区在住の二八会員17名のほか、故郷竹田より末広平八氏、北九州地区より末吉興一氏（前北九州市長）、別大地区より武藤直子氏らのゲストを迎えて、地上54階の天空の宴席から赤爆漫の東京都心を見下ろし眺めながら六十数年前の昔に戻り和気あいあいのうちに楽しいひと時を過ごしました。

昭和46年卒 久住登山

羽田野耕一（昭46年卒）

昭46年卒生は関東同窓会で最初に当番幹事を担当した平成14年以降、毎年何回か集まり飲み会や旅行などのイベントを企画してきました。

昨年の忘年会で祖母登山の提案があり、地元竹田、緒方の同窓生に相談しましたが、女性が参加すること、および年齢なども考慮して7月26日に久住山に登ることが決定しました。

当初参加者は地元組を含めて8名が登頂を目指す予定でしたが、生憎台風12号が接近してきたため、関東、ドイツから帰省した4名が、無理なら引き返すことを条件に登山を開始し、風雨の中、無事登頂することができました。

下山後の夜は、地元組主催の懇親会があり、関東組6名を含む計14名で深夜までカラオケを楽しみました。還暦は過ぎましたが「体の動くうちが花」と来年は屋久島にチャレンジする話も飛び出しています。

竹田高校 関東五三会

首藤　亮治（昭53年卒）

毎年、恒例になってきました「関東五三会」を、6月20日(土)に「関東同窓会」の後に「銀座アンジェロ」で行いました。

この会が発足したのが、2006年からになります。きっかけは、私が単身赴任地熊本市から埼玉へ赴任した時に、同郷朝地町出身の先輩でもあり、関東同窓会幹事長の井手得郎さんより携帯電話に「6月に竹田高校関東同窓会があるから、亮ちゃん、おまえも出て来い」と言われ、「どうせ、私が出るなら関東在住の同級生に声を掛け、できるだけ皆を集めてやろう」と、拙速な考えからでした。

今回は、東京都・神奈川県・埼玉県在住の方々に、私は赴任地大阪市から参加しました。10名の方々が集まり、五三会会長・山部光男君の挨拶で始まりました。

みんな現役で仕事をしている者ばかりなので、近郊に住んでいてもなかなか逢う機会がありませんが、集まれば男性陣からは、高校生時代の淡く気になる女子の話題などで場は持ちきりです。いくつになっても、あの時代に逆戻りです。

これからも、「26会」「28会」の先輩方を目標にし、4年後は還暦での関東同窓会当番幹事になりますが、全国から同級生50人の関東同窓会参加を目標に今後も盛り上げることとなりました。

阿南惟幾大将七十年忌祭

胸像建立式典の斎行

実行委員会事務局長　白井　幸光

昭和20年8月15日未明、陸軍大臣であった阿南惟幾陸軍大将が「一死を以て大罪を謝し奉る」の遺書を残し、先の大戦の責任を負って自刃されてから本年で70年の歳月を迎えました。かつて阿南惟幾大将から多大の恩恵を享受したとされる故梶原直様（中津市・梶原病院理事長、去る6月ご逝去）から、大将の胸像を建立して頂きたいとのお申し出があり、当顕彰会に多額のご寄付を賜りました。

錚々たるご来賓とご遺族が参列。ご遺族の三男・惟正さんは竹田高校昭和26年卒

大将の故郷である我が竹田市では、そのご厚意に報いるため有志により「阿南惟幾大将七十年忌祭及び胸像建立実行委員会」を設立し、大将の遺徳を偲ぶとともに武人としてだけではなく現在の日本の礎となられた大将の人間像を後世に伝える目的を以って「阿南惟幾大将顕彰会」の再構築を行いました。

去る8月22日、好天にも恵まれ、廣瀬神社に於いて阿南大将の三男・惟正さん（東京都）、五男・惟茂さん（東京都）ほか、ご遺族6人の皆様、大分県知事広瀬勝貞様、衆議院議員衛藤征士郎様をご来賓として200人を超える皆様にご臨席をいただき「七十年忌祭及び胸像建立式典」を盛大に斎行いたす事が出来ました。

同窓会生徒海外派遣事業で生徒8名がベトナム旅行へ

本年8月に同窓会による海外派遣として8名の生徒がベトナムへの学習旅行に4泊5日で参加しました。この同窓会による派遣事業は竹田高校が創立110周年を迎えた際に企画されて行われたことをきっかけに毎年行われてきました。ここ数年は東南アジアの政情を考慮して国内に派遣されてきましたが、今年は海外派遣が実現しベトナムへと派遣されました。

この派遣には生徒8名（男子2名、女子6名）と後藤輝美校長、同窓会の後藤真二会長が参加しました。

ベトナムには中国を宗主国とした時代があり、フランスの植民地だった時代があります。その痕跡がいたるところにあります。生徒たちはハノイ最古の大学・文廟でまず中国の影響を知り、民族学博物館で日本との違いにカルチャー・ショックを受けたようです。

さらにハノイの日本パーカライジングのベトナム工場を訪問しました。そこで現地の社長さんからベトナムでの事業の内容や、ベトナム人の特長や仕事ぶりなどを興味深い研修をうけることができました。最も多感な高校時代に東南アジアから日本を見つめなおす機会を得られたことは生涯の財産となることでしょう。

日本パーカライジング・ベトナム工場にて

フランス植民地だったことからたくさんあるフランス料理店にて

日本パーカライジング・ベトナム工場の会議室での研修風景

・・・・・・・・・・・・

今回のベトナム派遣では現地で活躍する同窓生の首藤康至さん（昭38年卒）が受け入れに尽力してくださいました。首藤さんから関東同窓会・田部明会長宛にお礼のメールが届きましたので一部をご紹介します。

・・・・・・・・・・・・

僕にとっては、外国に住むようになって40数年、異国で、初めて会う故郷の人々でした。竹田の山河をともに駆け巡った、幼馴染の後藤真二君も来ていただきましたし、本当に楽しい故郷との邂逅でした。ベトナム・パーカー加工での研修も、樫部社長さんのお人柄でしょうか、親切で、懇切丁寧な研修、工場見学、工場内社員食堂での昼食、ハノイ市内でのベトナム風夕食会、心温かい対応で、実に楽しい一日でした。40数年間、外国で一人で頑張ってきましたが、貴兄に連絡をいただき、数年前東京での「竹田会」に出席してから、一挙に故郷が近くなってきました。故郷とは、そしてそれにつながる人々とは、かくもよきものかなと、しみじみと感謝しています。

首藤　康至さん（昭38年卒）
＝ベトナム　ダラト在住＝

ふるさと名所紀行

老舗探訪 その2
有限会社 藤野屋商店

阿蘇、久住、祖母山系を一望に臨む竹田市菅生で広大な施設を展開する藤野屋の養鶏場

初代藩主に召されて播州から竹田へ
激動の歴史を乗り越えて海外へ飛躍

大分県下でも老舗がひしめく竹田の「老舗探訪」の第二弾は「藤野屋商店」さんです。県下の老舗ランキングで山本屋さん（前号紹介）に次いで古く、創業は1594年といいますから、関ヶ原の合戦（1600年）の前です。

現社長の甲斐正章さん（竹田高校・昭和37年卒）に寄稿いただきましたのでご紹介します。（編集部）

・・・・・・・・・・・・・・・

1594年（文禄3年）豊後岡藩に入封された初代藩主が中川秀成公でした。

秀成公は、新たな城下町作りの為に、播州三木より商人団を呼び寄せました。その中に初代藤野屋儀四郎も含まれていました。藤野屋は御用商人として、町内で和ろうそくの製造を行い、永く城中並びに城下にこれを納めて、家業に励みました。

中川公に最初に召された商人達は、植物や自然に由来する屋号を与えられました。小松屋、正木屋、桔梗屋、橘屋…　今でも竹屋、きしべ家、藤野屋などが健在です。

儀四郎の襲名はなぜか途中数代で終わり、その後は、藤野屋仁七郎の名のもと代々受け継がれてきました。

明治になると竹田は、西南戦争の一大戦場となり、町内の多くの商家が焼失、藤野屋もその犠牲となりました。その頃竹田では、山間地の落差のある地形を利用した水力発電が、九州で初めて稼動を始めました。電気の普及が、ろうそく事業からの撤退を決意させ、その後家業は菜種油を搾り、食用油を製造するようになり、さらに明治中期以降は、政府認定の精米業、製粉業に転業し、電気の利用や水車を動かして、コットンコットンの音が毎日聞こえていたそうです。

大正時代に入ると、家業の幅も広がり、阿蘇郡馬見原町（霧が多い場所で有名）の親戚が生産した釜煎り緑茶を一手に仕入れ、その販売も行うようになり、お茶の藤野屋の名が段々と知られるようになりました。

大東亜戦争が終わって6年、先々代当主（富太郎）が病で倒れ、子供にも恵まれなかったこともあり、復員した甥の誠一（陸軍少佐）が養子となり、家業を継ぎました。先代当主は「これから日本人の食生活は大きく変わる。欧米人のようにミルクを飲み、卵や鶏肉、豚肉を多く消費する時代がきっと来る。」と将来を見据えました。法人化は1958年（昭和33年）ここに有限会社藤野屋商店が誕生しました。

昭和35年に撮影されたオート三輪車と先代社長の甲斐誠一氏

当初はオート三輪車を一台購入して、地域の農家へ畜産の飼料を配達するところから始まりました。当然鶏、豚を飼育することで産まれる畜産物の販売にも力を注ぎました。

しかしながら先代社長は業績を伸ばしてきましたが、長年の無理がたたり1970年（昭和45年）病に倒れました。

そのため、長男である正章が急遽勤めていた会社を辞し、藤野屋を引継ぎ、現社長となりました。

昭和40年代後半は日本の養鶏や養豚の形態が大きく変わって行く激動の時代でした。農家の庭先で飼われていた鶏や豚は、段々と規模が大きくなり、企業養鶏、企業養豚へと進んだのです。

その頃の世相を反映した名文句に「巨人、大鵬、玉子焼き」がありました。卵は食品の一番人気商品となり、畜産物全体の

先代社長・甲斐誠一氏と従業員の皆さん

雷妻は目を見張るほど増加していきました。

時が移り、平成の御世となり27年、藤野屋商店はお陰様で次期社長（昇一郎）の時代が目の前となりました。新しい発想、若者らしいチャレンジで、現在は養鶏場、養豚場に近代的な設備の直営農場を建設し、安全安心な畜産物の安定供給を展開しています。

初期のろうそくからは、離れたかもしれませんが、これも環境に適合していく知恵であり、取り扱う商品を徐々に変えて、400年の歴史を刻むことができたのは、まさに先祖のお蔭であります。

ここで嬉しいニュースが一つございます。実は2年前から鶏卵の海外輸出に関心がありまして、農林水産省に何回もお伺いし、指導を受けて申請書を提出しておりました。この度、農場の衛生対策とその環境がきちんと整備されていること、そして鶏のサルモネラ検査等の疾病対策において、全てのチェック項目で陰性が確認、評価されました。8月6日シンガポール政府のAVAより正式に鶏卵輸出の認可が届きました。九州で初めての農場です。これからシンガポールの人々や日本人レストラン等で美味しい（たまごかけご飯）を提供して参ります。

私たちの家族の生活信条は、毎日朝晩、仏壇に手を合わせ先祖に感謝すること。また毎月一度、先祖の墓参りを行い、子供や孫たちに「仏様見てござる」を教えることです。子供たちへのこのような教育が実は一番大事なことだと感じています。

会社の経営理念については「全ての物に感謝する事」「当たり前の事を当たり前に行う事」「相手との約束は必ず守る事」「身ノ丈の経営に徹する事」これらのことを堅実に守り、屋号を後世まで残すことこそが、我らの使命であります。

最後に先代から教わった歌をご紹介し、終わりと致します。

「下がるほど
人が見上げる藤の花」

竹田市東京事務所の所長に
白坂亜紀さん（昭60年卒）任命

竹田市東京事務所の所長に本年4月、わが同窓の白坂亜紀さんが任命されました。8月30日には都内・銀座にてその記念となる講演会も催され多彩な活動が期待されています。今回は白坂さんに寄稿をお願いしたのでご紹介します。

◆　◆　◆　◆　◆

今年度より、竹田市東京事務所長のお役目を頂戴しました。これまでも、銀座を中心に東京で竹田イベント、大分イベントを開催していましたが、ますます張り切ってPR活動に励みたいと思っています。銀座で飲食店を経営していますが、お客様に竹田出身であることを伝えると、皆様から歴史があり文化豊かで、優秀な方々を輩出している町との評価を頂きます。

私自身も、竹田を離れて30年、遠い東京の地から、改めて竹田の魅力を感じています。最近、若い芸術家たちが移り住んで活動をしていますが元々、竹田は文化芸術が豊かで、彼らの創造意欲をかき立てる土壌があったのだと思います。昨年「ダイニングアウト」というイベントが開催されたこともあり、自然や食材の豊かさも、広く知られることとなりました。

この秋、銀座屋上での第4回目のカボス収穫祭をして多数の方々に参加をして頂きました。銀座有名バー33店舗でカボスカクテルフェアも大好評で、竹田カボスの認知度がアップしています。

そして新たに注目されているのは、国内一のサフラン産地ということ、美容にも健康にも効くという炭酸泉です。8月銀座での、首藤市長、白洲信哉さんによるトークショーでも、多くの方々に竹田の魅力を知って頂く機会となりました。

私は、瀧廉太郎が少年時代に過ごした家（現在は記念館）で生まれ育ちました。その影響は大きかったようで、常に故郷への思いが湧いて来ます。関東に住む竹田出身の方々との交流も広がっていますので、皆様とそして竹田市に住む皆様とも連携しつつ、東京の地から「竹田」を発信し続けて参ります。

6月の総会・懇親会の際の白坂亜紀さん（中央）と脇を固めるのは、関東同窓会の田部副会長と井手幹事長（両氏はともに竹田市東京事務所の顧問として白坂所長をサポートする役割を担うことになりました。）

関東同窓会から母校図書室に　寄贈文庫開設

昨年から役員会・幹事会などで検討を重ねてきた母校への図書寄贈の計画がこのほど実現し、9月15日に母校において松良会長臨席のもとで文庫開設の除幕式が行われました。これには後藤同窓会会長、後藤校長をはじめ教職員の代表と、現役生の文芸部員など生徒の代表らも参加してくださいました。

今回、開設された文庫は私たち同窓の先輩が現役の高校生に読んでほしい図書を贈るものです。初回は多数の候補を挙げて担当の先生方に選定していただき22冊を贈ることができました。

また文庫の名称も「Ambitious Library（大志文庫）」と名付けて立派なプレートを作ることができました。専用の書架もオリジナルで製作することができ、これから生徒たちに十分に活用してもらえるような立派なコーナーとなりました。

今後は、継続して寄贈を続けます。皆様からもぜひ「こんな本を読んでほしい」という本をご推薦ください。推薦していただく図書にとくに規制はありませんが、私たちは候補を提案する形で、選定するのは先生方である点はご理解ください。

その名も「Ambitious Library（大志文庫）」

書架の上に掲げられたネームプレート。和文の「大志文庫」は関東同窓会・相談役の佐藤映之氏（昭28年卒・書道七段）に揮毫していただきました

図書寄贈の第1号となったのは大石（内川）美紀さん（昭59年卒）。6月の総会・懇親会の際に2冊の図書を持参してくださり、折から出席していた後藤校長に直接贈呈することができました

◎図書推薦の連絡先
広報委員長　菊藤淳（昭52年卒）
メール：etoj@hotmail.com
TEL：090-9159-7231
FAX：0422-43-7762

翌日の大分合同新聞で大きく報道されました（9月16日朝刊）

現役生との深い絆 今後も

竹田高の関東同窓会
母校に文庫と書架寄贈

竹田市の竹田高校（後藤輝美校長、443人）で15日、同校の卒業生らでつくる関東同窓会（松良修二会長、約1700人）が母校に寄贈した文庫と書架の贈呈式があった。

図書室に設置した木製の書架を「大志文庫」と名付けて、会員らが選んだ小説や詩集、中国文学作品などバラエティー豊かな22冊を並べそろえた。今後も毎年に20冊ほどのペースで寄贈を続けるという。

寄贈式には松良会長、同校文芸部員らが出席。松良会長が「卒業生と現役生の絆が深まるきっかけになればうれしい」とあいさつ。後藤校長が「先輩方の熱い思いが詰まった文庫を大切にしていきたい」と謝辞。

生徒会長の後藤優人君（17）＝2年＝は寄贈された本について感想を述べた後、「たくさん本を読み、社会に出たら先輩方に負けない活躍をしたい」と話した。

竹田高校関東同窓会が寄贈した「大志文庫」（中央）＝15日、竹田市の竹田高校

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

田島　孝弥　様（昭20年卒）　没年月日不詳
小澤　慶三　様（昭34年卒）　平成26年10月12日没
大久保常光　様（昭42年卒）　平成26年12月　没
古謝　正祐　様（昭28年卒）　平成26年12月4日没
菅　章江　様（昭29年卒）　平成27年4月9日没
倉原　久士　様（昭35年卒）　平成27年5月　没
加藤　幸子　様（昭22年・高女卒）　平成27年6月28日没
緒方　義信　様（昭38年卒）　平成27年6月29日没
菊川　清見　様（昭33年卒）　平成27年8月30日没

※事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させて頂きました。

組織委員会からのお願い

左記の卒年の皆様はまだ学年幹事が決まっておりません。男性、女性各一名を至急ご選出いただき、清水洋一組織委員までご連絡をお願い致します。

昭和61、62、63、平成1、4、5、6、7、8、10、14、16、17年卒

組織委員長▼志賀　卓史
組織委員▼清水　洋一
y.shimizu@jwater.co.jp

編集後記

今回の「臥牛」から編集担当となりました衛藤淳と申します。どうぞよろしくお願いいたします。前任・田部先輩（現・副会長）は20年の長きにわたって本誌編集担当を務めてこられたとのことです。気の遠くなるような大変な実績と思います。私はもとよりそのような力もございませんが、諸先輩方のお力添えをいただきながら務めてまいります。

明年の平成28年には、わが関東同窓会は創立30周年を迎えます。この大きな節目にあたり、会報誌が皆様にどのような役割を果たせるのか、改めて自分なりに知恵を絞ってみたいと思います。多士済々、実に多様な同窓生がこの関東でたくさん活躍しておられます。そうした方々の思いを少しでも糾合できる会報誌を目指して取り組んで参ります。忌憚のないご意見ご要望、そして寄稿を心よりお待ちしています。どうぞよろしくお願いいたします。

●連絡先●
〒181-0003
東京都三鷹市北野2-3-22
（広報委員長）衛藤　淳　宛
TEL：090-9159-7231
FAX：0422-43-7762
mail to：etoj@hotmail.com